



春季大祭 1月19日(水) 午前10時～  
婦人会例会 1月9日(日) 午前10時～



新年明けまして  
おめでとうございます

新しい年が素晴らしい一年  
でありますよう  
心よりお祈り申し上げます

今年もよろしくお願ひいた  
します。

富石分教会長 伏井 啓之

教祖の時代から続いている伝統行事である御本部のおせちは、今年も新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために中止となりました。昨年年末から少しずつ増えているオミクロン株が、まだまだどれだけの感染拡大となるのかわからないことを考えると、どうしても密になってしまうおせち会場や移動中に伴うリスクをふまえると中止せざるを得ないと思えます。感染してしまいとても辛い体験をされた方が周囲にいないと、多くの人が集まる行事を行わないことに不満を抱くかもしれませんが、隔離され、会うことさえも出来ないことを体験された方からすると恐怖でしかないと考えます。まだまだ、収まったと思えない状況が続いております、少しでも早く収まるように願わせていただきます。

## 今こそおぢばにひと粒の種を 本部神殿で新型コロナ終息のお願いづとめ

教会本部は11月1日、本部神殿でお願いづとめを勤めた。

このお願いづとめは、新型コロナウイルス感染拡大の終息と罹患者の平癒をあらためて願うとともに、お互いの心を一つに合わせご守護を願う意味を確認するもの。今年4月から、毎月1日正午に本部神殿で勤められている。

当日、感染拡大を防止する対策として殿内の参拝者を制限するとともに、南礼拝場前にパイプイスが設置された。

定刻正午、中山大亮様は、宮森与一郎・内統領と共に神殿上段へ参進。大亮様が拍子木を、宮森内統領が数取りを務めて、お願いづとめが勤められた。



おつとめに先立ち、宮森内統領があいさつを行った。

宮森内統領は、コロナの蔓延で対面によるコミュニケーションが難しくなったことを踏まえ、「私たちのおたすけは、相手の事情や身上の苦しみを肌で感じ、言葉で癒やし、寄り添い、おさづけを取り次ぐ。優しい声をかけて人を勇ませることから、おたすけは始まる」と強調。「**独り成りて来ると言えば、赦って置いておもう。そうではない。一度の声、二度の声、三度声、これ集まれば成りて来る。一度一寸始め。一寸声。これだけ話して置こう**」（明治 26 年 9 月 29 日）との「おさしづ」を引き、電話



やメール、リモートを駆使して気持ちを伝えたいと努めることは素晴らしく、活用していきたいと述べたうえで、「でも、直接の声かけは全く空気が違うような気がする」として、「コロナで断ち切られた人と人との関係を、なんとか修理・修復していきたい」と語った。

続いて「**一粒の種を埋る。種を蒔いたるその方と言うてある。種を蒔いたで、修理一つの理出来た。種を蒔いて修理思やん**」（明治 32 年 5 月 10 日）との「おさしづ」を引いたうえで、声をかける、にをいを掛けることができる姿に修復・修理していくためには、種を埋める必要があると指摘。今こそ一本の草引き、少しの回廊拭きからでも、ひと粒の種をおちばに埋っておこうと一同に呼びかけるとともに、「この種が必ずこの先、花が咲き、実の成る姿になるはずである。人と人との関係を修復してくれるはずである」と話した。

### 本部祭典参拝および帰参に際しての留意事項（更新）

■ 2021 年 12 月 6 日

現在、国内における新型コロナウイルスの感染拡大は抑えられていますが、新たな変異株の確認や急速な感染拡大の懸念など、いまだに予断を許さない状況にあります。本部祭典へのご参拝および帰参に際しては、以下の点に十分ご留意くださいますようお願いいたします。

- 祭典時、ようぼく・信者の昇殿参拝は遠慮していただいております。
- 殿外での参拝は、それぞれ事前に検温、手指の消毒を行い、マスク着用のうえ、十分な間隔を維持してください。なお、パイプ椅子に着席する場合は間隔を開け、1 脚につき 2 人掛けとします。
- 参拝中は、大声での会話を慎むなど、三密回避を徹底してください。
- マスクを着用していても飛散するマイクロ飛沫による感染例も報告されていますので、特に祭典中の大声での唱和はお控えください。
- おちばへの移動中はもちろん、詰所での宿泊や滞在中も、こまめな換気やマスクの適切な着用など感染防止策の徹底をお願いします。
- おちば滞在中も、普段生活を共にしている人以外との会食はできるだけお控えください。
- 現在、天理市より「感染再拡大防止『注意報』」が発出されている状況をよく踏まえて、天理市内での行動にも十分ご注意ください。

なお、今後の状況により内容を更新します。

立教 184 年 12 月 3 日 天理教教会本部



「勇んで掛かれ」  
さあ／＼皆勇んで掛かれ。  
勇む事に悪い事は無いで。

今日の  
おやのことは



おさしづ 明治33年10月31日

先日、近くの幼稚園の傍らを通り抜けると、塀越しに園内のアナウンスが聞こえてきました。

「なわとびの準備ができました。ゆっくり歩いて、遊戯室に来てください」

ゆっくりと、噛んで含めるように指示を出しています。

私が子供のころは、よく「廊下は走らないように」と注意されました。否定形で注意されると、最初から叱られているように感じて、委縮してしまふことがあります。「走らないように……」ではなく、「ゆっくり歩いて……」というアナウンスに、幼稚園の工夫と先生の人柄を感じました。

「さあ／＼皆勇んで掛かれ。勇む事に悪い事は無いで」

この1年を振り返ると、何か問題に直面したときに、「思い悩まない」とか「気にしない」といった否定形で出来事を受けとめることが幾度もありました。こういうときは自然に気持ち委縮して、いつの間にか視界が狭くなっていることが少なくありません。

「おさしづ」には、「案じてはいかん」というように、人間思案を戒めるお言葉も見られますが、運命を切り換えていくためには、やはり”勇む”とか”喜ぶ”といった前向きな姿勢が必要でしょう。

人生を否定形で受けとめるのではなく、「勇んで」今日一日を生きていく。来年は、このような姿勢を忘れずに、充実した1年を過ごしたいものです。(岡)

\*\*\*\*\*

この原稿を書いているのは12月23日です。まだもう少し年越しまで間があるのですが、出来れば年内に皆さんに届けたいと思いながら書いています。

この1年を振り返ると、親戚の方のコロナ感染があり、本当に辛いしんどい中を無事くぐり抜けて後遺症もなく元気になられたことが本当にありがたいことだったなあと思います。そしてその過程では、祈り願うことにより様々な形で心を助けていただいていたと思います。心をそろえて思案して祈ることで、神様がはたらいてくださるのです。

春には雅志夫婦に子どもが無事誕生したことも、本当のめでたくありがたいことです。

同じく春先より、母節子が介護認定を受けたことに伴い、風呂やトイレ、居室内の改装を進めて自力で出来るようにしてきました。デイサービスも3日に増やして引きこもらないようにすることで、少しは改善されているようですが、痛みは引かないですね。

急激に体力が落ちているのが、よくわかります。しかし、気は元気ですね。

石川の教会も、会長が出直し、まだまだ思案しなければならないことが山積みですが、これを機に仕切り直しの節なのだと思えて感じる年末です。

勇んで掛かれ という言葉、その勇んでいる姿は、元気はつらつとして希望に向かっている姿、また陽気な姿とも重なります。勇んで物事に対処すれば、不思議と神様が先回りをして段取りをしてくださいます。ますます、物事が順調に進みさらに心が勇むのです。

12月2日、人間ドックの結果を主治医に診てもらうために病院にいました。前夜よりLINEを確認していないことに気づき、見てみると訃報が届いていました。

それは南河内支部内の教会の会長様の出直し連絡でした。すでにお通夜も告別式も家族と上級の教会で済まされたとのこと。組織で動いている関係上、その関連手続きを病院から帰って行いながら、これも今まで長年勤められたことへの感謝の意味を込めて、玉串料を届けさせていただくのが、支部長としての務めなのですが、祭儀が終わってからの場合、届けづらいのも事実です。その日であれば自分自身で届けることが出来るので、準備をし

てその教会の上級教会へ向かいました。原チャリで20分くらいのところにある教会です。在宅されているかどうか確認せずに向かいました。というのも、その方の携帯電話の番号が変わってしまっているらしく間違い電話となってしまったからです。

近くの交差点まで来て、このあたりを曲がったところのはずだと、10年前の記憶を元に曲がっていくと、目的の教会に着きました、そのときその交差点を先に曲がった車が、駐車しようとしているドンピシャのタイミングだったのです。

単車から降りるのと車から降りて互いに挨拶、本当に引き合わせてくださったと、神の力にびっくりです。なんでもその教会の月次祭に参拝して帰ってきたところとのこと。

お悔やみの言葉を添えながら玉串料をお渡しして、これは、教会本部と大阪教区と支部などからの長年会長として務められたお礼を込めたものですので、お納めくださいとお渡しすることが出来たのです。

このとき私が行くのを躊躇して向かうのが遅くても、また、逆に急ぎすぎて速くても、これほどぴったり出会うことはなかったでしょう。

会長さんは喜んでくださり、折り返して該当の教会に行って渡してくるということで万事上手くいきました。

起こってきた出来事に対して、どう考えて対処するのか？

その対処するときの心向きが勇んで掛かるということなのだと思います。

苦しく辛いときもあります、投げ出したくなるときも怒り心頭に達するときも、ひとまず深呼吸をして、心の向きを変えて思案することでよい対処が出来るのだと思います。

大晦日（おおつごもり）は、その一年にあったことを清算し新たなる時を迎えて、心を立て替える大きな旬です。年末年始、どうぞ振り返りながら、来る年に向かって勇んで掛かりたいではありませんか。（会長）

## 「大晦日（おおつごもり）」

歌：作詞：作曲：さだまさし



クリスマスが過ぎたなら 今年を振り返る季節  
だってもうすぐ誰にでも 新しい年が来る  
クリスマスが過ぎたなら 心を入れ替える季節  
ちゃんと反省した人には 素晴らしい年が来る  
どんなに辛い年でも どれ程苦しい年でも 全て今年に詰め込んで 悲しみにさよなら  
大晦日の夜には ゆく年に心からありがとう みんなで一眠りしたなら 幸せになろう

クリスマスが過ぎたなら やさしい人になる準備  
来年こそ今年こそは 新しい人になろう  
クリスマスが過ぎたなら あったかい人になる準備  
笑顔で過ごせるような 素晴らしい年が来る  
新しいカレンダーと 新しい今年の生命 涙拭い笑って歌おう 悲しみにさよなら  
クリスマスが過ぎたなら 全ての生命にありがとう みんなで一眠りしたなら  
幸せになろう

大晦日の夜には ゆく年に心からありがとう  
みんなで一眠りしたなら 幸せになろう

クリスマスが過ぎたなら（涙拭い）  
全ての生命にありがとう（笑って歌おう）  
みんなで一眠りしたなら（悲しみにさよなら） 幸せになろう



大晦日の夜には（大晦日の夜には） ゆく年に心からありがとう（ありがとう）  
みんなで一眠りしたなら（素晴らしい年） 幸せになろう（ハッピーニューイヤー）